

# 大阪大学図書館報

Vol. 4 No. 6 Nov. 1970

## コンピューター講座（第一次）終わる

日程	45年4月～9月、週1回 3:00～5:00 全26回
教材	NHKコンピューター講座（FORTRAN）の16mmフィルム
講師	大型計算機センター 助手 山縣敬一
受講者	図書館職員を主体にした事務系職員 45名

関 集 三

私どもは今日情報化時代に入ったといわれている。人間がこれまで、衣・食・住を得るため自然の力をかり、また自然の産物を利用して生活し、そして人間社会独自の文化を創造してきたが、今日、この文化が非常にゆがんできたといわれる。これはいわば、私どもの多方面の物的、精神的生産活動がバラバラになってきていることに大きな原因があるといえよう。このような時代において、私ども人間のつくり上げた知識の交流、すなわち情報が、きわめて敏速にしかもあやまりなく伝達され、しかもそれが情報としての公害をもたらされないよう、バランスをとる必要がある。

図書館は、いうまでもなく、人間が発明したもっとも重要な情報である「図書」を取扱う場である。このような情報の数は、最近ますます指数関数的に、膨脹しつづけているので、それを分類整理する業務は、限られた人間の力だけでは、いよいよ処理できない時代になってきたすなわち、計算機利用の時代に入ったのである。私ども、図書館員は、いよいよ専門意識にめざめて、このような事態を直視しなければならない。このような観点から、今回私どもは、このフォートランの講習会をもつことになった。

幸い、大阪大学計算機センター長高木教授のご推薦のもとに、同センターの山縣先生を講師としてお迎えすることができたことは、誠に幸いであつたと思う。先生には、この4月から9月の本日まで週1回、26回にわたり、きわめてご懇切なご指導を賜わることができた。教材のみでは、理解しにくい一方的な学習になりがちであるが、先生のご熱心な教授と受講者皆さんの熱心な質疑応答、実地見学、演習等により、コンピューターに対する理解と関心を高めていただき、また初級の実地処理も出来るようになった。これは、ひとえに先生のご教授の賜と厚くお礼申し上げる次第である。

このような教育をもとにして、図書館業務の機械化についての基礎をなす電子計算機に親しみ、これを利用する力を得たことは、これから多くの、各自の受け持つ業務そのものをも、組織的に順序だてて、しかも能率的に考え、それを処理する力を得たことを意味している。このたび、私どもの修得した知識は、あるいは初歩的であるかもしれないが、立派なスタートをし

たことの意義は、極めて高く評価すべきものと確信する。どうか、この講習会の経験をもとにして、目前に来ている、図書館業務の機械化に立ち向かい、図書館の近代化に進んでいただくよう望みたい。

ここに、最終回にあたり、改めて山縣先生のご指導に深くお礼申し上げるとともに、この講習会の準備に、終始熱心にご協力いただいた図書館員の皆様に感謝の意を表したいと思う。

(9月29日 終講式あいさつより 附属図書館長)

## バカとハサミとコンピューター

講師 山 縣 敬 一

今後の勉強法としては、まず第一に、手近な機械を利用して何でもよいからプログラムを作ってみることである。プログラムそのものはマニュアルがあり英語を習うより簡単である。第二には、コンピューター活用の見識を持つこと、言いかえれば何をコンピューターリゼーションするかということである。そのためには当然機械が処理しやすいように現状の流れを整理しておく必要がある。

現在、情報化時代と言われ情報がはんらんしているが、情報を作り出したのは人間であり、それを意味づけるのも人間であるはずである。コンピューターを導入すれば「人間疎外」が起こると心配する人がいるが、出てくる情報を選別するのは人間であり、人間がしっかりしていれば主導権はあくまでも人間にある。コンピューターが出した情報であるからと盲目的に信用することなく、これをうまく利用すればコンピューターは人間にとって大いに役立つものである。すなわち、バカとハサミとコンピューターは使いようである。(終講式あいさつより、大型計算機センター助手)

## —小 さ な 進 歩—

宮 岸 朝 子

何の予備知識もないまま、講座が開かれるから参加しようというわけで出席していた毎回は省みると、はじめ、一体どんなことが始まるのか、これで解ったのかな。2回目、ふんぶん、3回目から、ちんぶんかんぶん……。演習問題が出されちょっと本気ではじめからやり直しの勉強、解りかけた頃フィルムは先を進んでおり、なんだかんだでコース終了。ともあれ、6か月にこれまでのコンピューター・アレルギーは緩和され、不可解と思ひ込み、知ろうと努力もしなかったコンピューターの実体が、フィルムと講師の懇切丁寧な解説を通じて多少なりともつかみ得たことは成功であった。私達の関係する医学図書館界では、MEDLARS 検索が JIC-ST 中心に国内における実験段階に入り、二年後には実践での活躍が期待されているという。また本館でも研究グループによる図書館業務の機械化への下準備が着々と進められていると聞いている。遠いようで近い将来現実でのコンピューターとの対面の場で、今回得た知識が不可欠とは云え、どれ程の利点となるかは疑わしい。しかし受講しただけのことがこれからの日常業務の分析の上に生きてくれば、これは小さな進歩と認められよう。

(中之島分館運用第二掛)

## 裏方を担当して

浅野次郎

図書館業務にコンピューターを導入する時期は近くなっているが、図書館員の中には、「人間疎外」を強調するあまりコンピューター・アレルギーを示す人や、「バラ色のコンピュータ」を唱える万能主義者が多く、コンピューターについての正しい知識を得る必要が痛感されていた。このような目的で本年早々からNHK教育TVで放映済の「コンピューター講座」を使つての館員研修を企画した。

たゞこの講座は、テレビの1時間に収めるためにある部分は簡単に飛ばしている点があり、また数学的な論理思考が不得手な私たちにとって難解なところがあって、フィルムをそのままみるだけでは効果があがらないのではないかと考え、2・3の先生方に相談した結果、山縣先生にお願いすることになった。

先生の講義の誠意にあふれた熱心さについては館長が冒頭に触れているが、特に講座を効果的にしたのは、前後それぞれ2回づつの演習問題とセンター見学であった。前者では、受講者の提出した回答に詳細に添削して返され、後者では、受講者が実際にキー・ボードをたゞいたが、9月14日の「TSS」についての見学ではあらかじめ野球の打率計算のプログラムが用意されてコンピューターとの対話ができる。

研修を終えて問題点を探してみると、第一に受講者を登録制にしたことである。これは会場の座席数が少ないためとった措置であったが、そのため満員でお断わりした人がいる反面、登録者45人(内訳 図書館職員25, 教官4, 一般職員16)に対し、1回平均受講者数は23人で、現実に座席に余裕があり、特に7月に入ってから10数名に減ったことからして、今後のこの種研修には受講者を厳選するかまたは公開・自由席が考えられる。

第2は、手近に使えるコンピューターがないことである。プログラミング学習は機械に通すことで進歩するといわれている。これは現状では解決できないことである。

本館ではさらに「コボル入門」の入手を予定しているが、都合がつけばこれを使つての研修も企画中である。その際には今回の反省を生かしたいと考えている。(附属図書館受入掛長)

## 大阪大学附属図書館規程の一部改正

前号にのべた吹田分館の発足に伴い、図書館規程が以下のように一部改正された。

第三条第二項を次のように改める。

分館は、中之島分館、吹田分館及び薬学部分館とする。

附則

この改正は昭和45年10月5日から施行する。

註(現行第三条第二項)

分館は中之島分館、薬学部分館、工学部分館及び産業科学研究所分館とする。

なお、これと関連して大阪大学附属図書館吹田地区運営委員会規程および同吹田分館長選出規程が制定され、10月22日の運営委員会(第一回)で吹田分館長として安藤弘平教授(工)が選出された。

## 参考事務（レファレンス）に大学院生が参加

館報前々号で紹介した参考事務に各学問分野の大学院生クラスの人を当て、充実・強化したサーヴスを行ないたいという希望は、以下のように一部果たされて、10月1日から本館カウンター横で行なわれている。ご承知の方も多いと思うが、紙面を借りて皆さんの気軽で十分な活用（読書相談なども）を願う次第である。

担当者	人文社会科学	山本（経博2）—(火)・(木) 17:00~19:00
と	自然科学—数物系	棚橋（理修2）—(月)・(金) //
担当時間	自然科学—化学系	松田（ // ）—(水)・(土) //

（以上、夜間開館時ただし(土)  
は13:00~15:00

## —電話帳をご利用下さい—

本館では、このたび東京都（特別区のみ）大阪市、大阪府下、京都市、京都府下、神戸市（12月初旬発売）、兵庫県下各全域の五十音順、職業別の電話帳を揃えました。これらは、最新の住所録としても利用できますので、ご活用下さい。1階開架室参考コーナーにあります。

### 学生希望図書 一本館一

昭和45年6月~9月のリクエストで受入済 みのもの Le Petit Robert Dictionnaire Paul Robert Alain Rey. 牧野信一全集 全3巻 牧野信一 人文書院 生態写真 高山蝶 田淵行男 朋文堂 新空手道教本（豪華版） 中山正敏 鶴書房 積分方程式入門（基礎数学シリーズ入門14） 溝畑 茂 朝倉書店	論集 日本文化の起源 平凡社 シーニュ I, II メルロー・ポンチ みすず 代数学および幾何学 山内恭彦 共立出版 原価計算論 番場嘉一郎 中央経済社 フランス革命の研究 桑原武夫 岩波書店 フランス革命とその思想 河野健二 //
--	---

### 教官著作寄贈図書

一本 館一 水野祥太郎（医・教授） 砂漠の国の病院で S.45 朝日新聞社 永嶋大典（教・助教授） 蘭和・英和辞書発達史 S.45 講談社 —理学部図書一 奥貫一男（理 教授） 山中健生（// 助教授）	チトクロム（生体酵素シリーズ） S.45 朝倉 緒方惟一（理 教授） Recent developments in mass spectroscopy. '70 Univ of Tokyo Pr. 神谷宣郎（理 教授） 続・生物物理学講座第9~12巻 S.44/45 吉岡書店
--	--



②図書館維持費関係：45年度の35%の増額のあとであるので、来年度の増額要求は無理としても、今後の増額を期待したい。

以上の2事項について要望したいが、自律的財源確保のため図書館予算の独立について、さしあたり、大学内で運用上配慮されるよう努力すべきである。

### ○第2分科会報告（主査 関阪大館長）

①事務組織と職員組織：図書館業務の質量の拡大に即応して、従来の図書系2，職制系1計最低3系の任意配置を，図書系1（たとえば参考係）を増した最低4系の任意配置を望むとともに，部課制の拡大，事務長補佐の配置についても考慮してほしい。

②定員増：図書館業務の合理化，機械化の推進に伴い，逐次文部省と大学が質的な面も考慮しながら，職員数の最低基準を策定する方向が示され，また，学部，学科等の新增設に伴う事務職員の増員のうちに図書館職員が当然含まれていると解しているので，文部省はその比率を明示してほしい。図書館における非常勤職員の比率が高いので，大学内部において人員の再配置および質的向上に努力するが，研究，教育に支障をきたさない程度の必要な人員の確保と，余人をもって代え難い専門職員の定員削減の対象外について文部省に格段の配慮を望む。さらに参考業務，情報管理に従事するより高度の専門職員の配置についてもじゅうぶんに考慮してほしい。

③等級別定数の改訂促進について：図書館職員は一般職員に比して人事交流の度合いが少ないため，等級別定数上，下位の等級に集中しがちで，5等級以上の定数が少なく昇格が停滞して勤労意欲を失いがちであるため，図書館職員の等級別定数構成を逆梯形になるよう毎年改訂してほしい。

④時間外開館のための定員確保：時間外開館手当による開館延長は暫定措置で，定員化によって行なうのが至当であるが，現時点では，時間外開館手当，勤務時間の割振り等により，学内的にケースバイケースで解決せざるを得ない，教育改革の進行につれて学生の時間外利用が増加するので，学生アルバイト雇用予算の増加等の方策によって，これを推進すべきである。とくに，夜間課程を有する大学等においては格段の留意を願いたい。

### ○第3分科会報告（主査 古瀬小樽商大前館長）

①国立大学図書館改善要項の改正促進：現在でも，改善要項の水準に達しない面もあり，改正よりも完全実施を望む意見がでた。昭和27年当時予測できなかったIR，機械化，相互協力等について改正を要するが，文部省でも改正の動きがあることを考えあわせて，学内的努力ともあいまって，この要項に示された基準に接近できるよう強力な具体的対策を望む声が強かった。

②各地区協議会誌の交換：地区組織は国立大学のみではない地区もあるので，その会誌を全国立大学に自動的に配布することは困難であるから可能な地区から実施することとしたい。

③大学図書館職員講習会出席旅費の予算化：管理職の会議出席旅費等が積算されているが，講習会出席旅費を予算化してほしいとの提案に対して，文部省から，中堅職員の長期研修の出席旅費および3か月の在外研修旅費の予算は要求中である。しかし，一般職員の研修旅費の見通しもないので，講習会旅費の予算要求は困難であるとの説明があった。また，これのみでなく，司書職制度確立のため，別途の手当等による待遇改善を図るべきであるとの意見があった。

④図書館職員の充実：図書館職員を定員削減対象からの除外，現行の国立学校図書専門職員採用試験の再検討が協議された。

⑤図書館会計事務について研究する常置委員会の設置：調査研究については，すでに本協議

会で採り上げられ、中四国地区等から報告がでているし、当局との折衝を常置委員会に機能とし与えることはできない、文部省が46年度の概算要求中のものに「図書館事務改善協議会」などの有力な手段があるので、常置委員会設置の必要はない。

### ○ま と め

次の事項を新理事会に引継ぎ、要望事項として具体的な処理を一任することとなった。

①図書購入費の増額 ②図書館維持費の増額 ③職員組織、事務組織の整備 ④定員増 ⑤等級別定数の改訂 ⑥時間外開館要員の確保 ⑦職員の質的充実 ⑧研修旅費の積算

ついで事務局から新役員の発表があり、新会長東大館長から役員を代表してあいさつがあった。

会長—東大、副会長—京大、東北大、第1部会長—一橋大、第1部会幹事—東教大、第2部会長—阪大、第2部会幹事—広大 監事—横国大、神大

次回総会は東北地区があたることになっており、岩手大学が会場館となった。

会場館穴戸京大館長の閉会あいさつで総会を閉じたが、例年に比して会場の関係もあり、あまり建設的提案がなく低調気味であった。

### ——理学部図書室運営委員会——第17回——

45.9.19 (土) 於 化学系会議室

① (a) 45年度購入雑誌について 新規購入2点、中止2点、(b) Sea Mail で購入している雑誌を Air Mail に変えることについて、経費、必要度から考え45年度は見送る (c) バックナンバーの購入 ゼロックス収支を見たうえで年度末に検討する。②参考図書購入 参考リストを配布推薦を依頼する。③本館にマイクロフィッシュ撮影機が設置されたことに伴い、図書室で、そのリーダープリンターを来年度購入したい ④ゼロックス複写のセルフサービスについて ⑤閲覧室清掃について

### ——工学部図書館運営委員会——

45.9.22 (火) 13.00~15.00 於 会議室

①閲覧規則・利用細則 前会の改定案を修正して承認された。特色として、貸出券は3枚発行、貸出期限は単行本1週間、指定書は3日、逐次刊行物は製本・未製本とも一夜貸出。特別閲覧室視聴覚ホール利用内規も同時に決定した。特別閲覧室(個室)は1週間連続して利用できる。視聴覚ホール利用は1週間前に申し込み、分館長の許可を必要とする。いずれも研究・学習・教育以外の目的では利用できない。②移管図書の取扱い 学科から図書館への図書移管に関する要項の提案通り了承された。

### ——基礎工学部図書委員会——

45.9.16 (水) 15.15~16.45 於 中会議室

①昭和46年度外国雑誌の購入について 新規購入を希望する雑誌について、必要とする理由を各委員から説明があり、8点を購入することに決定した。46年度において中止する雑誌なし。

②45年度まで「数理」で購入している雑誌を「図書室」に変えることについて 4点の雑誌について数理は中止するとの報告があったが、基礎工学部では必要な資料であるため図書室で購入し、バックナンバーも図書室で保管する。

③昭和46年度和雑誌の購入について 「科学技術文献速報」全 Section 中止する。  
多額の支出にもかかわらず利用度が低いこと、また本館でも所蔵していることがその理由である。

### ——教養図書選択委員会——第1回(昭和45年度)——

45.9.17 (木) 10:00~12:00 a.m 於 本館会議室

①選択委員会未発足のため、図書館職員による推せん委員会が代行して選択した図書(学生希望図書・教官推せん図書・図書館職員推せん図書)を事後承認 ②今回推せんリスト中、1部をバンディングにして承認

今後の方針

〔事後承認で購入できるもの〕 ①学生希望図書:1冊1,500円以下、それ以上は選択委員会にかける。②緊急を要するもの。③和同問題図書(時野谷, 上田両教官推せん)

〔具体的選択方法〕 ①3つの推せん母体(学生, 教官, 図書館職員)から出されたリストにより, 消去法で不要なものを削っていく。②洋書で教養図書的なものを何ヶ年かの計画で購入する。(Ex. Que sais - je, Everyman's Library)



## 私の図書館利用法

西 家 利 文

豊中キャンパスでひときわ目につくイ号館と文法経合同校舎。そのそばに、遠慮がちに静かにたっているのが、われわれ学生が利用できる図書館である。3階建て、食堂がすぐ下にある便利なものである。教養部生として多くの学生が利用するのは、何をかくそう、自習室だといっても言い過ぎではない。夏は早くから冷房がきいているので、独語・英語など教科書の単語引きも楽しいものである。ほくもよく利用させてもらっている。もちろん時間内にやりとげないと図書館利用の効果が無いので自分としても忙しい。しかし何といても図書館は多数の図書資料を確保しそれを貸し出した閲覧させる場所である。

一階には沢山の図書が開架式でおかれている。レポートを書くために適当な資料を求め、あちこちさがす。たいていは見つかるが、すでに誰かが借りているのだろう、それらしき図書がない時は残念である。貸出中なら少なくとも一日待たねばならないし、もしその図書がなければ、他の図書館(近くにはないので、府立中之島図書館)へ行かねばならぬ。そこへ行って目的物をさがし、レポートを書くこともある。これは、時間的にもムダなのでできれば本学図書館に同じ図書をもう一冊蔵書構成に加えることを願わずにはおれないのである。何といても図書の数量が少ないことは誰しもが認めることで充実を希望したい。

カウンターの館員の話では増築の青写真がすでにできているとか、うれしいニュースである。また新刊希望図書に多額の費用をさいてくれるのはありがたいことである。ほくは経済学部である関係で経済論や思想論などこれまで13冊希望を出し、8冊を買っていただき貸出してもらった。個人所有の読書は一人きりだが、図書館所属の図書だと多くの学生が利用でき、情報交換可能の場であるといえる。



本学図書館は理科系の図書が多いのは事実だが文科系の図書も沢山ある。しかし絶対数はまだまだ不足している。また、別に視聴覚活動として、昼休みは映画やコンサートと多様性を示しているのもこの図書館であろう。よく友人と昼食後コンサートを聴きに行く。ステレオの音が、冷房の風に乗り流れてくるのは楽しいもの。

図書館というものは大学内のオアシスといってもよい。多種多様の図書がさらにふえることを、また他の機能が充実することを願いたい。(にしや・としぶみ 経済学部2年)

## 大学図書館専門職員長期研修会に参加して

標記研修会は文部省、図書館短大の共催で去る7月28日(土)から8月22日(土)まで約1か月間、主に図書館短大を会場に、全国25大学から31名の参加を得て開かれた。参加者対象は国立大学にしばり、図書館業務に10年以上の経験を必要とし、年齢制限も行なわれている。本学からは2名参加した。

この研修会の目的は、最近、大学における教育、研究活動の急速な進展に伴い、大学図書館が、利用者に必要とされる資料および学術情報を適確かつ迅速に提供する意義の重要性がますます高まっているので、このためには利用者の高度な要求に即応した体制を整備する必要があり、その一環として図書館業務の合理化、標準化および機械化による能率向上と、積極的な書誌的情報の提供等のサービスの質的改善を必要としているが、これらを実施するには従来の図書館学の知識と技術では処理し得ない面が少なくないために、これらに必要な知識および技術を習得し、その資質の向上を図ることにより大学図書館の近代化を促進することにある。

近年、爆発的な情報量の増大、専門分野の細分化、逆に関連分野との統合化が著しい。こういった現状から利用者の要求する資料なり情報を如何に受入れ、整理し、提供するかが、図書館に寄せられた一大課題なのである。それには一館のみでは処理し得るにはおのずから限度があり、他館との協力による能率向上も図らねばならない。標準化、機械化が必要とされるゆえんである。

この研修会は今年で2回目にあたり、昨年に比して期間も一週間延長された。研修内容も主として実習にポイントを置いて組まれているのも特色の一つである。しかも31名の参加者のそれぞれの所属に従って、扱う資料の専門別に人文、社会、理工、生物科学の4分野に分れて実習を受けることになっており、研修資格の制限と平均年齢36才という事実と相まって、受講者各人の能力と、経験、蓄積の面で共通性が多いのも研修効果を高める結果になり、この企画の成功したものゝ一つに数えることができる。地方からの参加者は一か所に集中して合宿した結果、生活を通じて肌を触れこの友情と連けいが生まれたのも予想外の効果であった。

近年、大学図書館にあっては業務量の増大、そのサービスの多様化、高度化はますますその度を拡大して行く。一方、人員増は望むべくもない。この現実を背景に、利用者の要求に適確に答えるには従来の業務の徹底した分析が必要で、思い切った省力化、簡素化が行なわれなければならない。と同時に、何らかの形での機械化、特にコンピューターの導入は、もはや時間的な問題である。今回の受講者が共通して認識した点でもある。しかし、それらを導入する前提となる面で解決すべき問題がむしろ大きいことも同時に理解し得たと言えよう。

今後、この種の研修会が内容的にもさらに充実し、大学図書館の飛躍的近代化の一つのテコ存在となって、より高い効果が期待できるよう企画されることを願ってやまない。

(木本明男 整理第二掛長)

